

キックオフ

札幌地域労組機関紙

S G U

SAPPORO GENERAL UNION

第136号

2012年11月1日発行

札幌市北区北6条西7丁目 北海道自治労会館 3F

TEL011-756-7790(代) FAX756-7792

<http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/>

これこそ団結の力！建設国保ユニオンの闘い 解雇撤回の裁判闘争で勝利！



【2012年10月4日判決後、当該組合員・支援者が出席しての勝利集会の様子】

私たち建設国保ユニオンの5名は、職場閉鎖を理由に2010年12月1日付けで整理解雇され「地位保全の仮処分申請」を経て、札幌地方裁判所に「地位確認等請求」の訴えを申し立てしていましたが、今年10月4日に「各原告が被告に対して雇用契約上の権利を有することを確認する」との全面勝訴の一審判決を勝ち取ることができました。また、仮処分申請では認められなかった解雇時に遡る給与等も支払われることになりました。約二年間に亘る長く苦しい闘いに勝利できたのは、ひとえに皆様に頂いた御支援のおかげですし、私たちが行っていた主張の殆どが認められた結果に感激しています。

更に、判決日の夕方より自治労会館にて盛大な「裁判闘争祝勝会」を開催して頂き、私たちの代理人である川村俊紀弁護士より「『雇用確保の義務を怠り、解雇回避の努力を尽くしていない使用者側の解雇は無効』という原告主張の大筋を裁判長が捉まえて判断してくれた、非常に価値のある判決」との解説がされました。ご多忙の中参加して頂いた沢山の組合員の皆様にお祝いと励ましの言葉を貰いました。

また、傍聴に駆けつけて下さった方、団結ラーメン・そうめんの物販にご協力下さった方、そして、これまでご支援頂いた全ての皆様にこの紙面を借り感謝申し上げます。

残念な事に使用者側は、判決文を受け取るなり早速控訴の意思表示をしてきました。闘いは高裁へと移り今後も続くことになりましたが、一日も早い職場復帰を目指し最後まで闘い抜く覚悟ですので、変わらぬ御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。(建設国保ユニオン 組合員一同)

「俺たちは奴隷じゃない!!」

初めての24時間スト 貫徹！田井自動車支部



(早朝より社前での支援集会)

今年5月に結成した「田井自動車支部」は、会社及び代理人弁護士の確信犯的不当労働行為に対して、断固とした姿勢を示すべく「24時間スト」を整然と実施しました。

9月21日早朝から支援者が続々と丘珠鉄工団地の会社前に集まり、当該支部組合員と連帯した集会が始まりました。

集会では組合旗が林立するなか、横断幕を手に田井自動車支部組合員が社前に整列し、研究者や大学生の他、ナショナルセンターの枠を超えた広範囲な支援者が結集しました。

まず、地域労組原田委員長の挨拶に始まり、川村弁護士や地域労組の各支部単組代表などから激励の言葉が述べられました。

地域労組鈴木書記長からは経過報告、田井自動車の橋本支部長の決意表明に続き、各組合員が心底からの「ひとこと発言」を行い、集会参加者に共感が広がりました。

今後は、道労働委員会の「不当労働行為」事件の審問が近く予定され、傍聴など連帯の「輪」を広げていくよう、引き続き支援をお願いします。

その後も会社及び代理人弁護士が開き直って堂々と団交を拒否しており、全く誠意のない態度をとっているのです。(幸識)

—安心して働き、暮らせる地域社会へ— 2012公契約条例大集会ひらく

札幌市議会で継続審議となっている「公契約条例(案)」の制定を求める会が、課題などについて理解を深める大集会を9月13日に札幌エルプラザで開催しました。

始めの基調報告では、制定を求める会の川村雅則北海学園大学准教授が「公契約傘下で働く人の困窮さが理解されているか」や「業界団体や事業者の対応が示している本質は何か」について触れ、多くの課題を取りこんだ運動の必要性を訴えました。続くディスカッションでは、上田札幌市長、中小建設業界代表、労働組合関係者、弁護士など多彩なパネラーで活発な議論が展開されました。



(市長に要望する阿部執行委員)

上田市長は、「この条例制定は、地域経済の循環・活性化に繋がる」と改めて意欲を示し、集会参加者からも、「公契約従事者の生活実態」と「条例制定に期待する意見」などが寄せられました。

最後に、制定を求める会の伊藤誠一代表(弁護士)は、「条例は、決して万能薬ではないが、ディーセントワークを追求する有効な手段である。」として早期制定を求める運動の決意を込めて述べられました。(幸識)

北海道地域最低賃金719円に！

この最賃は、すでに10月18日から適用されています。

最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当、家族手当、時間外手当は算入されません。全てのパートタイマー、臨時、アルバイト等すべての

労働者に適用されます。

残念ながら生活保護基準との格差16円を残したままですが、消費不況を脱却するため当面の目標「時給：1千円」の運動を粘り強く進めていきましょう。(幸識)

これでいいのか…!?有期労働 労働者の使い捨てを許さない市民集会開催!

今やどの職場を眺めてみても、非正規雇用労働者のいない職場はほとんどありません。生活するのも難しい年収200万円以下の賃金。これだけでも十分不利益を被っているにも関わらず、雇用期間が「有期」であることが、さらに非正規雇用労働者を追い詰めています。今年、労働契約法が改正されたことから「有期労働」問題に焦点を絞った市民集会が10月9日に自治労会館で開催され、約200名が集まりました。

そもそも有期雇用が必要とされる背景は「人件費抑制」です。「非正規雇用はいつでもクビを切れる」という使用者側の都合が間違っただけの理解がまかり通っており、一年未満の雇用契約を何度も繰り返している労働者がいるのが現実です。

今回の労働契約改正で「反復更新が5年を超えた場合」に「労働者からの申込み」で「無期雇用に転換する」という内容が盛り込まれました。

「無期雇用への転換」という視点だけで見れば一定の評価はあるものの、集会では弁護士、労働組合関係者からは「5年を超える前にクビを切られる可能性が充分ある」「無期雇用にするまでの5年は長すぎる」「『無期雇用に転換してくれ』と言うのは労働者にとって難しい」との批判があり、今回の法改正は使用者にとっての「抜け穴だらけ」と言わざるを得ません。

「もう限界!非正規労働者を見殺しにするな!」と、非正規雇用を使い捨てにする政治・使用者にNo!を突きつけていきましょう! (阿部)



さようなら原発北海道1万人集会 原発の廃止を求め1万2千人集う!

悪天候が予想された「さようなら原発北海道1万人集会」は、原発の廃止を求める人達の熱気が伝わったのか、一転晴天に恵まれ、10月13日に開催されました。昨年の福島原発の事故以来、反原発の声は毎週金曜に行われる首相官邸前のデモを中心として着実に全国に広がってきています。

“原発はもう要らないノダ!” そう訴える人たちが、今回の大通り西8丁目になんと1万2千人も集いました。原発はこれまで“二酸化炭素を排出しない、安定した電力源の担い手”として稼働されてきました。しかし原発は“放射性廃棄物を排出”、“制御不能に陥った時には原子炉は停止不可能”という人類にとって大きすぎる代償です。ところが東京電力は政府・原発利権と“カネのため”



という目標のもとにタッグを組み、泊原発を始めとした再稼働や大間原発の建設など“失敗から何も学ぼうとしない”愚行を犯しています。

腐りきった原発利権にNo!を突き付けるため集会では倉本聰、雨宮処凛など各界著名人や上田文雄市長からの反原発メッセージを述べました。

その後、「原発再稼働反対!」「大間原発の建設やめろ!」とシュプレヒコールを上げてデモ行進しました。政治をどんどん劣化させていく野田政権、環境を放射能で破壊させていく電力会社。それでカネを得る原子力村。これらに対し、No!を突きつけていきましょう! (阿部)

職場探訪 第13回

～ライラックユニオン～

前号の管理職ユニオンに続いて地域労組の中にある、三つの個人加盟支部の一つライラックユニオンです。

地域労組は元々個人加盟が基本的な加盟方式で、組合員が複数いる職場で支部を形成する形でしたが、2002年に旧札幌中小労連と旧札幌地域労組が統一されたことにより、これまで旧地域労組に個人加盟していたメンバーは直接の個人加盟ができなくなるため支部を結成することとなり、管理職と派遣に属さない約20名の個人加盟組合員をライラックユニオンに集約しました。

個人加盟の主な理由は

1. 「駆け込み相談に来て、交渉時に支部結成が難しい人」
 2. 「地域労組加盟の職場に勤務していて、退職後も個人で継続加盟する人」
 3. 「地域労組の活動に共感して個人加盟する人」
- の三つです。

私も地域労組加盟の前田電機製作所に勤務していましたが、退職後も地域労組の手伝い(宴会部長)をしたくて個人で約20年間継続加盟しています。

現在の活動は地域労組主催の学習会や集会に参加し、各種パーティでは近況報告などでメンバーの交流を深めています。

活動の悩みは個人加盟のため横の連絡が取りずらく、執行委員会などが定期的開催しにくいことですが、地域労組の活動に積極的に参加するメンバーも多く、今後も地域労組の活動を積極的に支援していきたいと思えます。

(ライラックユニオン 委員長 柿本清美)



札幌地域労組 第65回定期大会

日時 2012年12月1日(土) 13:00～ 交流会 17:00～
場所 センチュリーロイヤルホテル (札幌市中央区北5条西5丁目)

【 告 知 板 】

☆反貧困ネット北海道学習会「格差・貧困と憎悪」

日時 11月10日(土) 13:30～
場所 市民活動プラザ星園 会議室
(中央区南8条西2丁目旧星園高校)
資料代 一般1000円
反貧困ネット北海道会員700円

☆ユーカラ部会

日時 11月16日(金) 18:30～
場所 自治労会館3階書記局

☆過労死を考える集会「いのちの重さを問う…過労死防止基本法制定の取組」

日時 11月17日(土) 17:30～
場所 かでる2・7 520研修室
参加費 無料

☆労働者の権利講座

日時 12月4日(火) 18:30～
場所 自治労会館3階役員会議室

☆書記局仕事納め 12月28日

【編集後記】

安倍自民党総裁、橋下市長の維新の会、石原都知事の新党づくり・・・右傾化の動きである。

一般的には、右翼は保守勢力で資本家階級、大企業、富裕層の利益を守る立場にあり、左翼は革新勢力で労働者階級、中小企業、貧困層の立場にある。

いまの日本では、圧倒的に労働者階級の層が多く、しかも貧困層が増加している状況から働く者の立場に立った勢力が多数派になるべきであるが、逆に保守勢力・資本家階級に支配されている。

その要因としては、官僚等の権力機構が資本家階級に牛耳られており、巨大な金と権力により各層を支配、マスコミ、教育などを通じて国民を洗脳している。

右傾化が進むと、民主憲法が改悪されて、民主主義が抑圧された戦前の暗黒時代にもどることになる。

いまの政治情勢は極めて危険である。(新)